



事前研修(5/24) 第2回事前研修

神戸市立人とみらい防災センター・神戸市内フィールドワーク

神戸市立人とみらい防災センターを訪問し、見学・体験および、市内のフィールドワークを行いました。人とみらい防災センターは、1999年に発生した阪神・淡路大震災に関する資料が展示されており、当時の資料だけでなく復興に関する資料、そして防災に関する展示・体験などができる施設になっています。ボランティアの方から、液状化や耐震化に関するお話を伺うことができました。

神戸市内フィールドワークでは、まず慰霊施設を訪問しました。そのあと、倒壊した阪神高速の橋脚の遺構を見学し、メリケンパークに保存されている震災の爪痕を見学しました。神戸市内の当時の遺構はほとんど残っていませんが、被災当時の資料を見た後に現在の状況を見ることで、復興に関しても体感できたのではないのでしょうか。



防災センター資料



防災センター前にて



メリケンパークにて

生徒たちの振り返り・感想

1年櫻井

阪神淡路大震災について学んで、同じ地震でも直下型と海溝型でこんなにも違いがあるのかと思った。資料や映像を見て、自然災害自体をなくすことはできないので被害をできるだけ少なくするために対策をする減災という考え方はとても大切だと思った。また、当時の倒れた高速道路の柱や地面が歪んだところなど実際の被害の一部が残されているところや慰霊碑を見て、形あるものを通して災害について伝えていくことも大切なことだと感じた。しかし同時に物が残っているだけではなく受け取る側もきちんと考えなければならないと思った。昔のことだから今は大丈夫とったり、復興したことにばかり目を向けていたらまた同じような被害が生まれると思う。今回のプロジェクトでもただ話を聞いて過去のこととして捉えるのではなく、減災を実現するためにも被害に向き合い、何が原因でこのような被害が起こったのか、次に同じような災害が起こったときそのようにならないためにどうすればいいのかなど考えるきっかけにしなければならなかったと感じた。

1年藤原

今日は地震の具体的な被害や復興への取り組みについて学んだ。大きな地震だと、耐震への取り組みの問題もあるのだろうけどすぐに家が崩壊し、街は火の海になってしまっていて生き残るためには運にたよるしかないのではと感じてしまうほどだった。突然だから避けることもできないし、普段通りの生活の中で急に起こってしまうことはとても怖いと感じた。改めて普段からの防災やシミュレーションが必要かつ重要なのだと思った。